
発刊にあたって

財団法人 消防科学総合センター理事長

原 徳 安

当センターは、昭和57年4月（財）消防科学情報研究センターと（財）消防研修協会が統合してできた団体であり、「火災、災害に関する科学的調査研究及び情報資料の収集分析並びに消防研修に関する調査研究等を行い、もって消防に関する諸制度、技術、施設、設備等の普及・改善に資する」ことを目的としております。ちなみに最近の事業から昭和59年度分を紹介すると次のとおりです。

第一に消防、防災に関する調査研究については、日本船舶振興会、日本宝くじ協会等の助成、消防庁等の委託により、地域におけるモデル消防力等5件の研究開発、サイロ粉じん爆発等5件の調査研究、火災原因調査要領化学火災編等4資料の作成を行っています。第二に情報処理としては、消防庁の委託による消防統計（火災報告等6件）を電算処理するほか、23府県のマスターテープの作成、各種統計表の調製を行っています。

第三に研修面の事業としては、防災担当者等を対象とした防災安全研修会を中央で1回、地方で8回開催するほか、消防大学校等に対し研修資機材の提供をいたしました。

なお、これ等事業の実施に当たっては、消防庁はじめ関係当局の多大のご指導、ご協力を仰いでおり、このことについては心から感謝申し上げる次第であります。

最近、日中東京の幹線道路でタンクローリーが横転炎上し、民家6軒が焼失する事故がありました。昨年は一電話線の焼損による大きな社会的混乱の経験をもちました。これ等は、今や世界経済の一角を占め、1人当たりGNPが1万ドルを突破し、世界相手の経済摩擦に明け暮れるわが国も、一皮めくればとんでもない危険、落とし穴に囲まれていることをまざまざと見せつけました。現代の繁栄と豊かさは、一面ますます潜在化し、拡散し、複雑化していく各種危険性の増大を避けることができません。現代は常にその危険性の克服と軽減を図りつつ、それとの共存乃至封じ込めの途をあらゆる角度から探し求めていかなければならない宿命をもっているものと言えます。この意味で消防に寄せる国民の期待と関心は強く、シンクタンクとしての当センターの役割はますます高まるものと考えます。

当センターとしては、これまで研究調査の成果については印刷物として各方面に配付して参りましたが、更に各種事業をより多くの人に理解して頂くため、特に日本宝くじ協会のご援助を得て、このたび機関誌を発行する運びとなりました。発行は季刊を予定し、編集も特集号形体をとる等工夫をこらして参りたいと存じます。関係各位の暖かいご支援とご激励を切にお願い申し上げます。